

第15週の発生動向(2008/4/7~2008/4/13)

1. 咽頭結膜熱については、東地方+青森市保健所管内において第45週から、むつ保健所管内では、第48週から**警報**が続いています。
2. A群溶血性レンサ球菌咽頭炎については、東地方+青森市保健所管内において第8週から、弘前保健所管内では第10週から**警報**が続いています。

第15週五類感染症定点把握 注:五類感染症定点把握疾病の警報・注意報については、二次保健医療圏単位で判定しています。

疾患番号・疾患名	東地方+青森市		弘前		八戸		五所川原		上十三		むつ		青森県計		増減数 (前週からの増減)	東地方(再掲)		青森市(再掲)		定点数																			
	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点		数	定点	数	定点	数	定点	保健所名	インフルエンザ (小児科+小児科)	小児科	内科	基幹													
(85) インフルエンザ	3	0.21	1	0.07			1	0.14					5	0.08	0				3	0.25																			
(74) RSウイルス感染症															-1																								
(75) 咽頭結膜熱	2	0.22	5	0.56			1	0.20	5	0.83	7	1.75	20	0.48	-3					2	0.25																		
(76) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	35	3.89	22	2.44	2	0.22			6	1.00	2	0.50	67	1.60	-7	4	4.00	31	3.88																				
(77) 感染性胃腸炎	84	9.33	76	8.44	27	3.00	23	4.60	51	8.50	32	8.00	293	6.98	82	6	6.00	78	9.75																				
(78) 水痘	10	1.11	12	1.33	6	0.67	9	1.80	21	3.50			58	1.38	-20	2	2.00	8	1.00																				
(79) 手足口病			2	0.22							2	0.50	4	0.10	0																								
(80) 伝染性紅斑			1	0.11	5	0.56					1	0.25	7	0.17	-2																								
(81) 突発性発しん	5	0.56	4	0.44	5	0.56	1	0.20	2	0.33	5	1.25	22	0.52	4	1	1.00	4	0.50																				
(82) 百日咳															-3																								
(72) 風しん	平成20年1月1日から全数把握疾患に移行しました。															0																							
(83) ヘルパンギーナ															-1																								
(73) 麻疹	平成20年1月1日から全数把握疾患に移行しました。															0																							
(84) 流行性耳下腺炎	4	0.44					2	0.40					6	0.14	2			4	0.50																				
(86) 急性出血性結膜炎															0																								
(87) 流行性角結膜炎	2	1.00			2	1.00	3	3.00					7	0.64	6			2	1.00																				
(95) マイコプラズマ肺炎			1	1.00									1	0.17	-4																								
																東地方		弘前		八戸		五所川原		上十三		むつ		青森市		合計									
																2		15		14		7		9		6		12		65		42		23		11		6	

は警報
 は注意報
 「空欄」: 患者発生数0

表以外の感染症法対象疾患 (注:届出数は速報値です)

- (9) 結核(二類全数把握疾患): 弘前1人、上十三1人、青森市1人 (20年計:94人)
- (73) 麻疹(五類全数把握疾患): 八戸3人 (20年計:44人)

感染症の窓

感染性胃腸炎

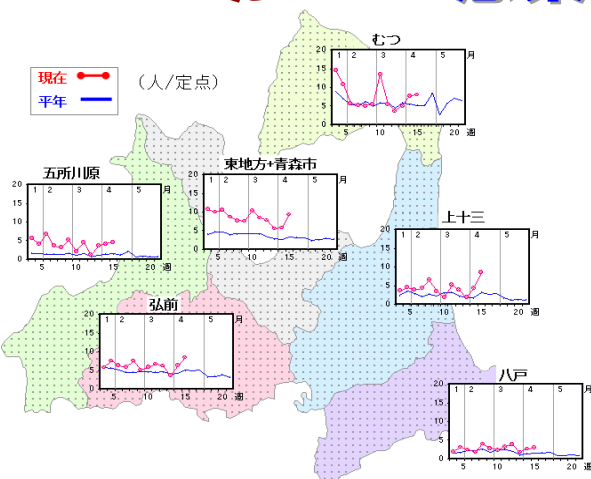


図1 青森県における保健所管内別届出数推移

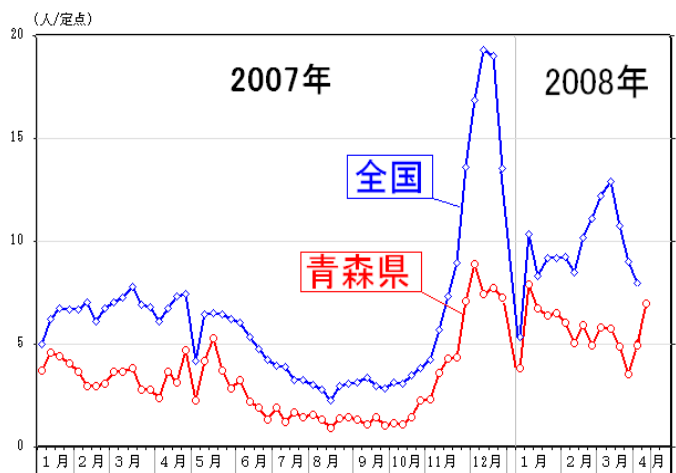


図2 全国および青森県における届出数推移

感染性胃腸炎の原因病原体には、ノロウイルス、ロタウイルス、サポウイルス、エンテロウイルス、アデノウイルスなどがあります。現在、東地方+青森市保健所管内では、1月下旬から例年を上回る届出数で推移しています(図1)。本県の2007年は、全国を下回る報告数でしたが、3月下旬から急増しています(図2)。原因として最も多いノロウイルスによる本疾患の主症状は、下痢、嘔吐、腹痛です。乳幼児や高齢者では重症になることがありますので特に注意が必要です。二次感染予防対策として、患者吐物や便などの後始末を行うときは、**マスク、エプロン、使い捨て手袋**を着用し、塩素系消毒剤(ハイターなど)を用い、**周囲に拡散しないよう静かに、そっと拭き取る**ことが大切です。